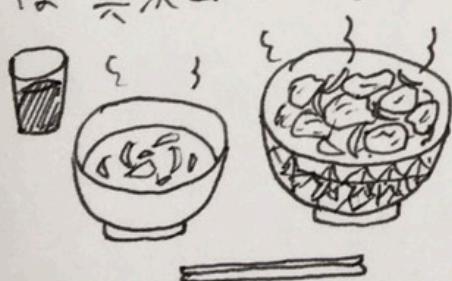


まきばでひとやすみ

毎年、母の日には町のあちこちで花を持った人、特に子どもやそのお父さん、若者など見かけ、とても微笑ましい気持ちになります。小さな兄弟がスーパーや花屋さんでお花を選んでいたり、お花を持って小走りにかけてく様子を見て、ああいいなあと思い、もうお母さんは何で幸せな気分になるだろう…と想像するのでした。普段なかなか感謝を伝えることができないからこういう機会にこそ「ありがとうございます」を形で表すのはとっても良いことだと思うし、世のお父さんはそれを子どもに教えるべき!と思うのです(笑)。お父さんはそれを子どもに教えるべき!と思うのです(笑)。そしてもちろんその逆もです。(父の日は母の日に比べどうも薄れがちですが… ) ちなみに私はまだ母の日に花をもらったりすることがありません!だから花を持っている人達を見かけると「いいなあ」と羨ましく、ちょっとさびしい気持ちになるのでした…。が、今年の母の日は朝から子ども達が洗濯を干したり食器を洗ったりお手伝いをしてくれてとても嬉しかったです。「手伝ってくれオーラ」を出していたせいか…?! 長男が弟さんに指示したり率先してやってくれました…。そして夕食は米を炊くところから配膳まで長男に任せさせてみました。父と母どちらも特に手出し口出しません、私はその間にお風呂に入らせてもらいました。できた夕食は具沢山のみそ汁に豚丼。どちらもとても美味しいくて、ああ



ここまで1人でできるようになれたのか、としみじみ成長を感じました。9年前、未知の世界だけの男子の子育てに戸惑い、落ち着きのなさに小恥ず、どこからともなく聞こえてくる、「3才になつたら楽になるらしい」「3才過ぎたらグッと楽になるらしい」といううわさにしがみつき「楽になる日」を心待ちにしていたことを思い出します。結局「楽になつた」という実感などあまり感じず(気が付かず)いたけれど、いつの間にかこんなに頼もしくなっている姿に、こうして少しづつ自立していくのだなあと一矢のさびしさを覚えたのです。早く大きくなつてほしいと思ってたあの頃を少し悔やんだりするのです。この次の日、彼は道端の草花ですきなブーケを作ってくれました。母の日のものがどうかはわからぬけれど立派な花束よりずっと嬉しい思ひました。

